

心のふるさと新井田川の会

No. 24

発行 令和3年12月15日
事務局 酒田市北新橋2-1-18 電話0234-23-4254

発行者 原田清廣
伊藤則義

…ご支援・ご協力 ありがとうございます…

「心のふるさと新井田川の会」は、平成15年4月に結成され、多くの方々のご協力・ご支援によって、活動を続けてきました。

コロナ禍が2年続いて、中止になった行事もありますが、全体的には大きな支障もなく、草刈り・花植え・ゴミ拾い・川の学習会などの活動が来ています。

次の方々に、ボランティア作業、会費・助成金、作業器材・花苗提供などで、毎年ご協力を頂いております。心から感謝申し上げます。

- * 個人：各自治会の有志（富士見町一丁目・富士見町二丁目・富士見町三丁目・北新橋一丁目・北新橋二丁目・新橋一丁目・新橋二丁目・新橋西・東栄町・若浜町東部・東中の口町・上安町・下安町・浜田親和会・八軒町・山王堂町・中の口共和会・片町・横道町亀寿会）
：その他個人
- * (株)丸高・(株)菅原工務所・前田製管(株)・羽前建設(株)・地神建設(株)・(株)巴組・山形県建設業協会酒田支部青年部・酒田湊観光企画(有)・コープなかのくち・酒田商工会議所女性会
- * 光陵高校生徒・富士見小学校生徒と保護者・若浜小学校生徒
- * 山形県(庄内総合支庁)・酒田市
- * 酒田市自治会連合会に加盟している各自治会（敬称略）

新会員ご紹介

イツミ電気工業株式会社様

代表取締役 中鉢 徹
住所 酒田市栄町15番8号

令和3年9月に協賛会員、草刈り作業の協力の申し出がありました。事務局が行っていた新井田橋脇の上流区域の草刈りをお願いし、継続してご協力頂くことになりました。



新井田川をきれいにしよう!! 汚れた水を流さない!! ゴミを捨てない!!

今回の特集記事について

会報の発行が第24号となりました。
今回は新井田川の桜並木の由来、現状について述べ、より良い桜並木の育生造成を図りたいものと願っています。

ソメイヨシノとその後継木と言われる「神代曙・ジンダイアケボノ」についても、桜の情報の一つとして載せました。少々長ったらしい拙文ですが、ご拝読ください。

新井田川の桜並木



新井田川桜並木の成り立ち

市街地流域の新井田川河畔には、左岸の桜並木を主体に近隣の公園と、右岸の約20本とで400本以上の桜がある。多くがソメイヨシノであり、北新橋二丁目の金内橋から富士見町一丁目にかけて、オオシマザクラとみられる桜がある。所々に八重桜、しだれ桜が少数ある。新井田橋の下に、亀八起の会が植えた河津桜の若木3本ある。



(満開のソメイヨシノ)

古い桜並木は、JR鉄橋付近から浜田小学校グラウンド沿いの土手にあった。

佐藤三郎氏の「酒田の今昔」によれば、昭和6年(1931)頃、遠田古竹氏が植えたと記してある。浜田小学校百年誌の年表には、昭和24年(1949)遠田寅吉氏植樹のサクラ並木、新井田川改修工事で取り払われるとある。古竹とは寅吉氏のことである。

現在の桜並木は何時植えられたのであろう。

昭和24年(1949)から始まった治水対策の大改修工事は、当初市街地流域の工事であったが、後に生石までの中・上流でも行なわれた。昭和45年から始まった北港開発で豊川の大改修工事も行われ、一連の工事が平成9年に終わった。

新井田川から東側地域の住宅地開発は、昭和38年バイパス(現7号線)工事が始まり、基幹道路が整備された。昭和39年東栄町、同41年若浜町、同42年東中ノ口、同44年新橋、同50年北新橋、それぞれの土地区画整理事業が完了した。

以前、渡部佐界氏(庄内園芸緑化株式会社社長)から聞いたことでは、JR鉄橋・新橋三丁目あたりの桜は、昭和48年頃、庄内支庁の管轄(明らかに堤防内に植えてある)で小島勝朗氏から依頼があつて植樹したと、記憶をたどって語ってくれた。小島氏は水利組合や土地区画整理組合の有力者で、若浜地区土地区画整理事業・富士見町の札谷地区土地区画整理事業の役職を務めた。

宅地造成が進むと同時に順次桜並木が造成されて行ったものと思われる。結果として、浜田南公園から富士見町東公園までの桜並木となった。新井田川堤防沿いを、桜の名所とする願いが実現したのである。

桜並木の現在

昭和48年頃の植樹というと、若木を植えたとしても樹齢50年を超えている。ソメイヨシノは60年寿命との説もある。一番古いのは浜田

南公園、それから新橋三丁目、新橋二丁目周辺の桜である。浜田南公園の巨木数本はかなり前に伐採されている。新橋三丁目土手は並木沿い直ぐ脇にかなり深いコンクリート製の排水路があり(現在はそのまま埋められている)、桜の根張りを害していた。近年立ち枯れして伐採したものもあり、太い枝が枯れたりして全体の樹勢も衰えてきており立ち枯れが心配である。



(新橋三丁目の桜 3月撮影)

北新橋西公園沿いの桜は木も太く樹勢もあるが、その南側の区域はこれまでも立ち枯れが目立ち、樹木医の話では、底の土壤が問題であろうと言っている。

浜田橋そばの浜田北公園、富士見町東公園の桜も生育状態は芳しくない。北新橋二丁目公園には15本の桜があるが、近年その半数は花が咲かない。幹の太さ20cm程度で底の土壤を含め、環境が良くないと言われている。

桜並木全体を見ると浜田橋の下の東栄町、新橋を挟んで新橋二丁目から新橋一丁目、北新橋西公園沿いのソメイヨシノは樹勢もよく満開時の花は見事である。また、北新橋の金内橋から

富士見町一丁目のオオシマザクラも、花と新葉が同時に揃うが見応えがある。



(オオシマザクラ)

しかし、場所・土壌・全体的景観の維持など環境を含め、ソメイヨシノは寿命のこともあり、専門家の観察・点検と対策が必要である。

新井田川桜並木の対策

- * 桜について学習し知識を深め、中・長期的対策を構築する必要がある。
- * 官民連携して、そのための組織を立ち上げるべきである。
- * 桜に関心のある人、まちづくりに関心のある人、発言力と行動力のある人をリーダーとして戴いて、桜並木の再生と新名所として造成する機運を高めていきたい。

ソメイヨシノ雑記

桜は自然交配で突然変異がおこりやすいと言われる。また、もともと日本に自生していた「オオシマザクラ」「ヤマザクラ」「エドヒガン」などを元に園芸品種として品種改良が行われ、自生種とあわせて400種類以上あると言われる。

ソメイヨシノは日本固有の「オオシマザクラ」と「エドヒガン」の交雑種であることが

遺伝子研究によって明らかになっている。

江戸時代の後期に現在の東京都豊島区駒込付近の植木職人が多く住んでいた染井村で、誕生したと言われている。植木職人が最初の1本から挿し木や接ぎ木で増やして売り出した。生育している全ての木が、同じ遺伝子を持っているクローンである。

花の特徴は、葉が出る前に

ピンクの花が咲きそろう「エドヒガン」と花付きが良く大きく整った花の「オオシマザクラ」の特徴を合わせ持っている。弱点は病気に弱く伝染病であるテングス病に罹りやすいこと、野生の桜に比べて寿命が短いことなどである。

木は10年程度で根を張り花を咲かせるが、放置すると40年ほど経つと徐々に衰弱し50年を過ぎると幹が内部から腐りやすくなる。寿命は

60年程と言われる。

明治時代以降、各地の城跡や公園、学校、街路樹、川岸等に植えられ広まった。全国に植えられた桜の8割がソメイヨシノで、桜と言えばソメイヨシノと言われるようになった。特に戦後から高度成長期にかけて植えられた木が多く、その老齢化が進んでいる。

天下の桜の名勝地と言われる弘前公園(弘前城跡)には、明治15年(1822)に植樹さ

れた幹回り5メートル超の長寿ソメイヨシノがある。(下の写真の桜) 園内には100年を超えるものが300本もあると言われる。



手入れをし良い環境で育てれば長く生きる。戦時中荒廃し壊滅状態であった弘前公園の桜は、戦後市の職員がリンゴの剪定にヒントを得て、不要枝を剪定し、肥やしを与え、管理に努め再生させ今日の姿にしたと言われる。

植えっぱなしは良くない。日頃の手入れが大切である。

←(弘前公園の長寿ソメイヨシノ)

最初の1本は人工的に作られたのか、自然交雑で出来たものを偶然発見したのかわからないとされていた。

ここに2015年3月13日付けの朝日新聞の記事がある。千葉大の中村郁郎教授(植物分子遺伝学)のチームの調査で、自然交雑で生まれたのではなく、人為的交配の証が見つかったと発表している。東京上野公園の動物園表門近くに

ある小松宮親王像(この場所のもと寛永寺の鐘楼であった)の周囲に植えてある、ソメイヨシノ1本・コマツオトメ1本・エドヒガン系5本計7本が、遺伝子の解明で同じ親木から生まれた「きょうだい」と判明した。人為的に交配したソメイヨシノと他の6本とを並べて植樹した可能性が高いとして、このソメイヨシノが最初の本であると推定している。

ソメイヨシノの後継木

神代曙・ジンダイアケボノ

全国津々浦々に広く植えられ、春を彩り日本人に愛されてきたソメイヨシノであるが、各地で老木となり衰え、植え替えの時期に来ていると言われる。この代替木・後継木として脚光を浴びているのが、ジンダイアケボノである。

テングス病に罹りにくく、開花時期や花の特徴がソメイヨシノと類似している。ソメイヨシノと比べると開花が数日早い、花の色が少し濃い、

小枝や葉に香りがあり、一つの花房により多く密生して花を咲かせる。花弁の先の濃い紅色が長く保たれる。木はそれ程大きくならずソメイヨシノよりやや小型(成長木の平均約13メートル)である。何よりもテングス病への対抗性が強く、街路樹などには最適であると言われる。

桜の名所づくりに取り組んでいる「公益財団法人 日本花の会」では、テングス病の

感染拡大を危惧して平成21年(2009)からソメイヨシノの苗木の販売を中止し、植え替えにはジンダイアケボノを推奨している。

東京都調布市 都立神代植物公園で発見された。日本花の会・桜の名所づくりアドバイザー西田尚道氏が発見し、桜研究者 林弥栄氏の調査で新種であることが判明し、平成3年(1991)新品種として認定された。

【由来】 戦後、神代植物公園に桜の苗木を植えることになり、米国ワシントンから6本の桜の苗木が贈られた。それは日本がワシントンに贈ったソメイヨシノと別種の桜がアメリカで交雑し、その種を育てた米名「アケボノ」と呼ばれた桜であった。この枝を接ぎ木して育てたら、母木のアケボノよりも赤味がかかった異なった花が咲いた。この桜が「神代曙」と名付けられた。

(参考：インターネットWikipedia その他資料
・桜関係本 原田清廣 記)